

# 春のクリーンアップウォーキング

令和6年7月7日

参加者：28人

**活動の中で見つけた課題**

**なんとす？ニセアカシア。**

幹の太さはまだ3センチほどのその樹木は、するどいゲートで幹と枝をびっしりと武装して、ナラ枯れ伐採地に1本だけ生えていた。

調べると、それはニセアカシア。北米生まれのマメ科の樹木。繁殖力のすさまじさで、世界的に問題になつてゐる樹木であった。

金峰山が外来植物に占拠されてしまふ！、慌ててその一本を切り倒してセーフ、と思つてたらその一年後、我々は驚愕する。なんと、昨年の切り株から樹高3メートルもの幼木が復活しているのだ。この樹木、一本切ると複数の芽を出してますます元気に繁殖するという、迂闊に手出しすれば倍返しされるやばいヤツ。さてりんご三山ではこのニセアカシア、なんとせばえべ？

たった1年でこんなに成長

前年に伐採

ニセアカシアについて詳しく教えていただいた秋田県林業研究研修センターの田村浩喜さんとニセアカシアを仰ぐ。

「オレだなば、雨だつてやるなだ」朝からシリトシトと湿っぽい空を眺めていると、金峰山の麓集落の明沢の方々は、清々しいほどにさらりと雨天決行を宣言し、その迷いのない一言で見事、我々のぐずついた心を明るくした。

本日はりんご三山初の清掃活動の日。山麓の刈り払いを予定していた地元の人たちも、それだばオレだも同じ日にすべ、と集結した。山麓道路のゴミ拾い隊の我々と、刈り払い隊の地元の方々との同時開催で、金峰山は雨にもかかわらず、一日中活気ある日となつた。

人の足が向き、目が向くことが山と森を守る一歩に繋がる。今日はたくさん頼もしい足と目と気持ちが、この山と森に集まつた。

あやー 農業だしゃこれ  
二つたにある

お天気もよく、枯れ葉の落ちた見晴らしのいい山歩きも気持ちよかったです

鳥海山めろど！

皆の力を合わせるととても大きな力になることも実感。

夏の大雨のときの土砂崩れ

最近は道路沿いの土砂崩れも深刻

ナラ枯れ伐採地から横手盆地と鳥海山を展望するハイキングも開催

あ！なめこ  
きのこ採れるなも  
ナラ枯れの影響なな。

せげ、はっぽで  
ふさがってら

こった大っきゴミ  
落ぢでらっけ！

ペットボトル、  
空き缶などが  
落ぢでら

ほら  
そさも！

希望者は落ち葉を持ち帰って腐葉土にしました

希望者は落ち葉で塞がった側溝を掃除

今回も大物  
あったなや

あや  
しか..



# 秋のクリーンアップハイキング

令和6年11月16日 参加者：45人

「葉っぱ拾うんだば腐葉土にすればえど」秋の清掃活動では、道路沿いを埋める落ち葉も掃除するのだと、地元の人に伝えると彼らはそのように提案した。

ブナ科の多い森である。現代ではゴミとして掃かれるだけの落ち葉だが、昔は肥料に生まれ変わつて利用されていた。

清掃活動では、道路脇の森へ還す予定の落ち葉だったが、このことを参加者に伝えようと、何人かは袋を落ち葉で満杯にした。おりしも季節は秋。落ち葉のみならず、ムキタケで袋をいっぱいにしようとする人も。森の「おみやげ」は昔も今も、わたしたちの生活と心を豊かにしてくれる。



クリーンアップ活動の後のブナの森はいっそう美しく感じられた。それだけでなく、座学でアカシアのことなどを説明していただいたおかげで、里山の問題に触れるきっかけとなつたことも印象的だった。

里山がより身近な存在として感じられた。ふだんのハイキングでもビニール袋を持ち歩いて、ちょっとしたゴミなどを拾うようにしたいと思う。

## ご参加のみなさんの声

里山の役割や、いまどんな状況なのか、問題となつていることは何かを知ることが第一歩かなと思う。いろんな人たちに認知してもらうことが大事だと思う。

クリーンアップの眼で山を歩くと、ゴミだけでなく植物、地形など登山道脇に新たな発見がありました。人と山の関わりについても考えさせられました。

写真の吹き出し文にもご参加の方からのお声を入れております。